

中国語学科履修案内

(2011から2013年度入学者に適用)

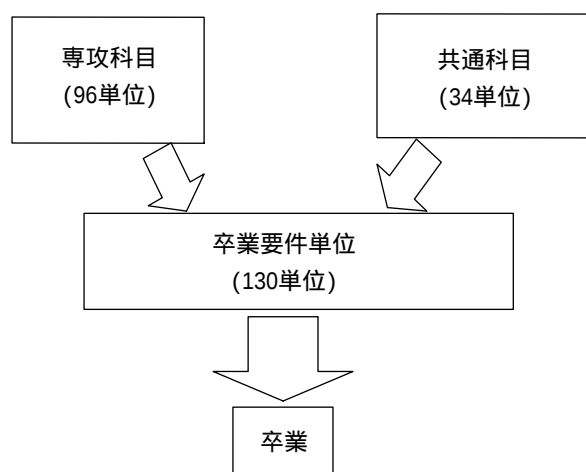
【中国語学科の教育目標】

中国語学科は、高度な中国語運用能力を身につけるとともに、中国の社会・文化についても深く専門的に学び、修得したそれらの能力・知識によって、日中間の経済・文化交流の場で活躍し得る有為な人材を育成することを教育目標としています。

【カリキュラムの概要と特色】

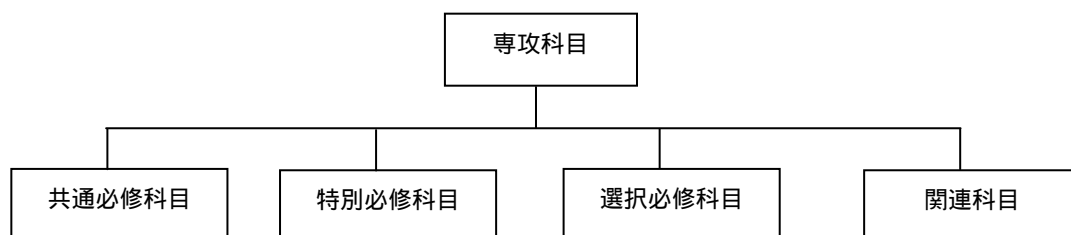
これから中国語学科のカリキュラムについて全体像と特徴を説明します。この履修案内を参考に「中国語学科教育課程表」に基づいて、履修計画を立て、履修登録を進めましょう。

中国語学科の卒業生として認定されるためには、「専攻科目(96単位)」と「共通科目(34単位)」の合計130単位を修得しなければなりません。カリキュラムの枠組みおよび科目の種類について理解し、効率的かつバランスよく4年間の履修計画を立てましょう。



専攻科目

専攻科目は中国語学科生向けに開講されている「共通必修科目」、「特別必修科目」および「選択必修科目」があります。このほか自分の専攻分野や興味・関心に応じて自由に選択できる「関連科目」があります。



共通必修科目、特別必修科目、選択必修科目

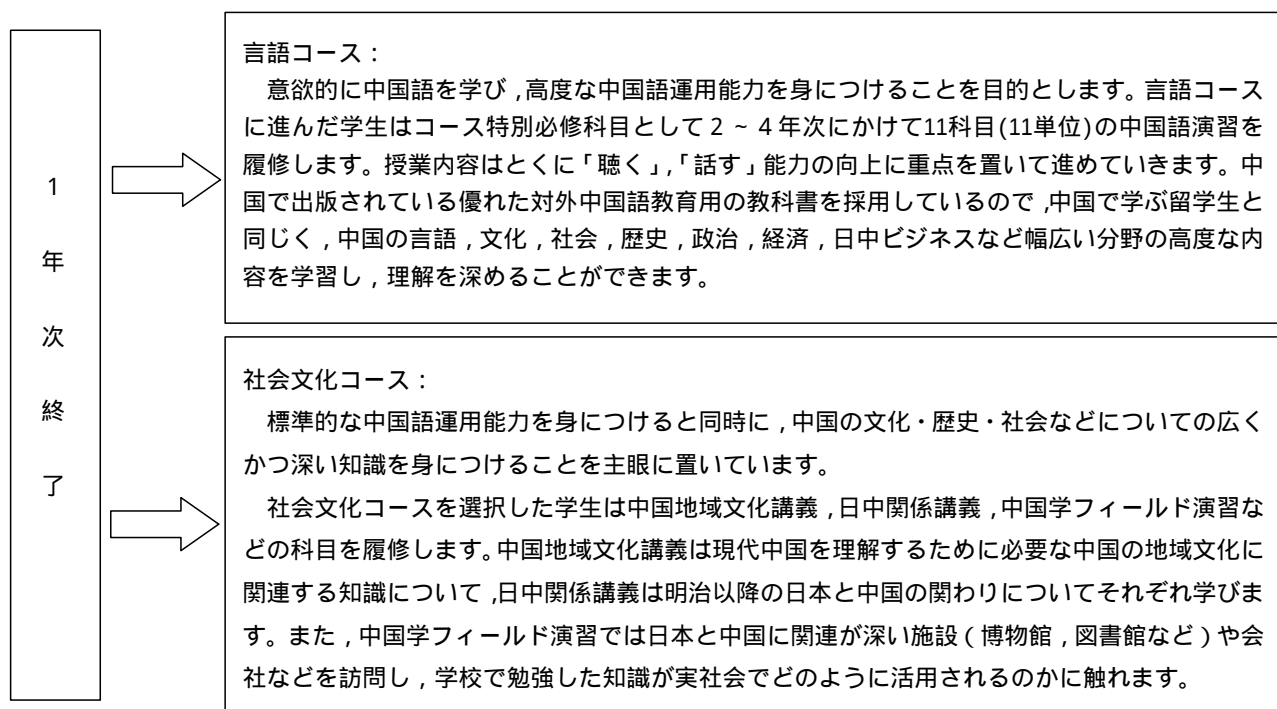
共通必修科目とは卒業するためにすべての中国語学科生が修得しなければならない科目です。特別必修科目とは2年次から分かれるコース別に用意された、各コース所属の学科生が修得しなければならない科目です(コースについては後述します)。選択必修科目とは複数の科目群の中から各自の興味・関心に応じて自由に選択できる科目で、A群、B群、C群の三種類があります。ただし、それぞれの群で一定の単位数を修得することが求められます。

これらの科目は授業形態によって、「語学演習形式科目」、「講義形式科目」、「ゼミナール形式科目」の三種類に大別されます。(次表参照)「語学演習形式科目」はトレーニングによって語学力を身に付けるための科目で、必修の中国語演習科目や選択必修の表現法演習科目などがあります。「講義形式科目」には講義形式によって専門的な知識を始め広く、次第に深く学ぶための概説科目と特講科目などがあります。この双方の学習を踏まえて、語学力と専門知識を総合的に鍛える科目として「ゼミナール形式科目」の中国学演習と中国学卒論演習があります。

	語学演習形式科目	講義形式科目	ゼミナール形式科目
共通 必修 科目	・ 1 ～ 3 年次配当の中国語演習科目 (1 年次は , 2 年次は , 3 年次は とローマ数字で学修年次を区別 . 以下同 様)	・ 1 年次配当 中国事情入門	・ 3 年次配当 中国学演習 ・ 4 年次配当 中国学卒論演習
特別 必修 科目	・ 言語コース 2 ～ 4 年次配当の中国語演習科目 ・ 社会文化コース 3 年次前期配当の中国語演習科目	・ 社会文化コース 2 ～ 3 年次配当科目 (例えば , 中国地域文化 講義など)	
選択 必修 科目	・ 2 , 3 年次配当 表現法演習科目 (C 群)	・ 1 , 2 年次配当 概説科目 (A 群) ・ 3 年次配当 特講科目 (B 群)	

[コース制]

中国語学科のカリキュラムは履修者が初めて中国語を学ぶという前提で組まれており、1 年次は全員等しく必修の中国語演習科目を履修します。2 年次からは学生個々の能力と特性に応じ、「言語コース」と「社会文化コース」に分かれます。それぞれのコースの特徴は次のとおりです。



各コースとも特別必修科目の要件単位数は 11 単位ですが、2 ～ 4 年次に配当される単位数が異なる点に注意しましょう。2 年次で言語コースは 4 単位、社会文化コースは 8 単位、3 年次で言語コースは 5 単位、社会文化コースは 3 単位、4 年次で言語コースは 2 単位、社会文化コースは配当なしです。

いずれのコースに属するにせよ、卒業まで中国語を読む、聴く、話す、書くというトレーニングをおろそかにできません。「選択必修 C 群科目」はこうした目的で設置された科目です。特に言語コースの人は第 5 ・ 6 セメスターに配当された「C 群科目」の中から 2 単位以上修得しなければならないことに注意しましょう。

関連科目

専攻分野に関連して、更に幅広く、時により深く、また体系的に知識を身に付けていくために、学生諸君の関心に併せて、卒業単位を超えて履修した教養系科目と中国語学科の選択必修科目 (A 群・B 群・C 群)、他学部他学科開講の専攻科目、外国語科目などから自由に選択できるのが関連科目です。コースに関係なく、24 単位以上修得する必要があります。

共通科目

「共通科目」は『履修要覧』の「卒業要件」の表と各科目群の履修案内を参照して下さい。ここではそれぞれの科目の履修要件について大まかに説明します。

上で説明した「専攻科目」とは別に卒業までに「共通科目」を34単位修得しなければなりません。「共通科目」には「FYS」、「教養系科目」、「外国語科目」があります。

共通科目（34単位）		
FYS(ファースト・イヤー・セミナー) (2単位)	教養系科目 (1)人文の分野 (2)社会の分野 (3)自然の分野 で各4単位(計12単位) (4)健康科学の分野 (5)キャリア形成科目(2単位まで算入可) を含めた5科目群で更に10単位 (計22単位)	外国語科目(英語) 1年次(4単位) 2年次(4単位) 3年次(2単位) (計10単位)

FYS(ファースト・イヤー・セミナー)

大学生として身につけるべき、学習・生活上の基本的知識を学習します。本学に入学した新入生全員に履修が義務づけられており、1年次の前期に履修します。

教養系科目

教養系科目は(1)人文の分野、(2)社会の分野、(3)自然の分野、(4)健康科学の分野の四分野のほか(5)キャリア形成科目の5科目群に分かれています。

まず(1)～(3)の各分野で4単位ずつ、計12単位修得する必要があります。さらに上記の5科目群の中から10単位を修得し、教養系科目全体で22単位修得しなければなりません。ただし、キャリア形成科目は、この22単位の中に最大で2単位までしか算入することができません。共通必修科目、特別必修科目および選択必修科目は教養系科目とリンクしながら履修することによって、専門知識を効率的に身に付け、ひいては語学力向上の土台を造り上げることができます。従って、教養系科目を重視し、共通必修科目、特別必修科目および選択必修科目とのバランスをとりながら履修していくことが望まれます。

外国語科目

1年次～3年次にかけて合計10単位を修得しなければなりません。国際化した社会においては、話し手の最も多い中国語と、広く国際語として使用されている英語は、最も社会的需要の大きい言語です。そこで、専門の言語である中国語の他に、必ず英語を履修することとし、国際社会のあらゆる場面で活躍できる人材の育成を目指しています。

【専攻科目の履修要領】

中国語演習(共通必修:19単位;言語コース:11単位,社会文化コース:1単位)

1年次から3年次まで系統的に共通必修の中国語を学びます。1年次で9単位、2年次で8単位、3年次で2単位が必修です。2年次終了時では、会話力と専門文献の読解能力を基本的に身に付けていることが求められます。3・4年次では必修の中国語演習科目は減少しますが、後述の選択必修科目C群の表現法演習を活用すれば、語学力をレベルアップしていくことが可能です。言語コースでは、2年次で4単位、3年次で5単位、4年次で2単位の計11単位の中国語演習が必修であり、高度な中国語運用能力の獲得を目指します。社会文化コースでは、3年次に1単位の中国語演習が配当されています。

選択必修科目A群(12単位以上)

A群は中国の言語、歴史、文学、社会、政治、経済に関する講義科目として、1・2年次対象の概説科目が用意されています。中国に関して幅広く厚みのある知識を身に付けるために、直接関心のあるテーマだけでなく、卒業要件単位数を超えて履修することが望まれます。

選択必修科目B群(下のC群を含め16単位以上)

B群は中国の言語、歴史、文化、社会、政治、経済に関する講義科目として、3・4年次対象の特講科目が用意

されています。特講科目とは、1・2年次を対象として展開される概説科目より深く専門知識を学ぶための科目です。概説科目と同様、直接関心のあるテーマだけでなく、卒業要件単位数を超えて履修することが望まれます。

選択必修科目C群(上のB群を含め16単位以上)

C群の表現法演習科目は2・3・4年次を対象に開講されます。これらの表現法演習は10数名の少人数によるトレーニングを通して、中国語を表現する能力を身に付けます。内容は「会話」や「翻訳」といった表現力を身に付けるトレーニングのほか、表現力の基礎となる読む力を涵養する「読解応用」、中国留学を意識した「HSK入門・応用」、さらには中国語を駆使して働くことを想定した「ビジネス」など多岐に渡っています。バランスよく履修して、表現力豊かな中国語運用能力を身に付けましょう。

言語コースの人はこの16単位の中に、第5・6セメスターに配当されている10科目の中から2単位以上を含めなければなりません。

中国学演習（必修4単位）

いわゆるゼミナールに相当する3年次対象の必修科目で、文献輪読やディスカッション、調査を通して、専門分野について高度な知識を修得することを目指します。同時に、図書館やインターネットを利用した文献検索の方法、現地調査やインタビューの方法、書物や論文のまとめ方、ゼミでの報告と討論の方法、ハンドアウトやレポートの書き方など、社会で必要とされる技術を修得します。なお、学科以外で開講されるゼミナールを同時に履修することが可能です。

中国学卒論演習（必修8単位）

卒論演習は、原則として、3年次の中国学演習がそのまま持ち上がるものとし、ゼミナール、論文(20,000字程度以上)、口述試験をその内容とします。

語学研修

本学主催の派遣語学研修に参加し、所定の時間学習した場合、選択必修C群の演習科目2科目に相当するものとして2単位を認定します。

【進級要件】（2年次から3年次）

2年次終了までに次の　、　の単位を含めて学則所定の「卒業要件単位数」のうち、60単位以上修得しなくてはならない。

外国語科目（英語）4単位以上。

「言語コース」は1・2年次共通必修科目および特別必修科目のうち中国語演習16単位以上。

「社会文化コース」は1・2年次共通必修科目のうち中国語演習12単位以上。